



安城特別  
支援学校の1年

## 7月・企業での実習 中

「特別支援学校の卒業生も、企業の大切な戦力」。生徒たちの企業実習の受け入れ先の一つ、刈谷市一里山町の自動車部品関連会社「ツルタ製作所」の鶴田昌宏会長は話す。「同じ社の仲間として楽しく働いてもらえるかどうかが重要。実習はそれを確認し合う場と捉えています」

乗用車や福祉車両、産業車両の部品の金属プレスやスポット溶接、切削加工などを手掛ける。従業員は二百八十人。刈谷市のほか、岐阜県御嵩町にも工場を構える。コロナ禍にあっても安定した業績を維持している。

安城特別支援学校の実習を受け入れるようになったのは、二〇〇五年からだ。「工場は危ない作業が多いと思われがち。でも自動化を進め、安全に作業できる

よう配慮している」。とはいえ、知的障害者のための仕事に特別に用意されているわけではない。他の社員と同じように、実習中に適性を見ながら入社後に配属する職場を考える。

「当初は障害がどの程度であれば働けるのかと、学校側にも迷いがあったようだ」と鶴田さん。実習中の様子から「この生徒には別の業種の方が向いているのでは」と助言することもある。

「障害の有無にかかわらず、誰にでも得手不得手はある。『自分でできる仕事がある』と自信が持てれば、楽しく続けられる」と鶴田さん。その思いに応え

黙々と作業に取り組む卒業生（左側の2人）ら。刈谷市のツルタ製作所で



実習中は、二十代の従業員が「ブラザー」として生徒を担当する。各部署を回りながら、仕事の手順や機械の扱い方、注意事項などをつきつきりで教える。分からないことがあればすぐに質問できる体制を整え、生徒の不安を取り除く。ブラザーは毎日、生徒の様子を報告書にまとめる。

「（部品の入った）箱の置き方に苦労していた」「材料がなくなると、きちつと報告してくれた」「掃除もすっかりとできた」「少し疲れがたまってきた」。報告書には、その日の生徒の姿が細かく書かれている。酒井さおり総務部長は「ブラザーも思い入れを持って指導している。実習後に『あの生徒は入社してくれませんか』と問い合わせる従業員もいます」と話す。実習中の生徒に寄り添うブラザーの存在は、入社後のミスマッチを防ぐためにも大きな役割を果たしている。（四方さつき）

# 他の社員と同じ「戦力」

るように、実習中に新たな一面を見せ「こんなにも力が付いていたのか」と教員を驚かせる生徒もいる。





## 7月・企業での実習 ①

刈谷市のツルタ製作所では、安城特別支援学校(安城市)の生徒の企業実習に若手社員を「ブラザー」として付け、指導する。そこには「社員を丁寧に育成することが社の発展に欠かせない」との思いがある。

ものづくりの盛んな三河地方には大手企業が多い。「働く側が就職先に困らないほど企業が数多くあるため、中小企業が人材を獲得するには非常に苦労が多い地域だ」と鶴田昌宏会長が明かす。社が置かれたこの状況が、独自の社員教育システムづくりへとつながった。

二十年前ほど前は中途採用者がほとんど。従業員の高齢化が課題の一つだった。いくら自動化を進めても「全てをロボット任せにす

るといわけにはいかない。人があつてこそものづくり」。しかし工業系の学生は大手企業への就職を希望する。それならー。

文系の学生や機械が苦手な人でもやりがいを持って仕事と向き合ってもらい、製品の高い品質を維持したい。そのために「活躍できる人材を育てる仕組みを自社で持つことが必要だ」。新入社員研修に五カ月間を当て、現場実習とともに座学を充実させている。

テキストは絵や工場内の写真、漫画風の解説なども加えたオリジナル。鉄と鋼の違いといった素材に関する説明や、機械工学など工



①新入社員用に用いるオリジナルテキストの一部 ②実習受け入れに向けて打ち合わせる鶴田会長ら(右) ③刈谷市のツルタ製作所で

# 若手が先生 互いに学ぶ

業系大学で学ぶ内容のほか、自社の加工技術、仕事の手順など働く上で必要な知識を幅広く網羅し、みっちり学ぶ。

研修で先生役となるのは入社二、三年目の社員だ。教える立場になることで、学んだ内容が深まり、定着する。四月に向けた先生役

の準備は、前年の十二月末から始まる。どうすれば分かりやすいか、集中力を途絶えさせずに最後まで聞いてもらえるか。若手社員に

とってやりがいがある一方、重圧も大きい。「講義が成功すれば自信になる。先生役の若手社員を指導する上司も必死です」と酒井さおり総務部長。「入社してから早い段階で人に教えることに慣れる。だから特別支援学校の生徒たちが来ても気負いなく、指導ができるのだと思う」と鶴田さんはとらえる。

ブラザーは企業実習中、生徒たちが楽しく働けるように心を配り、良さや適性を見抜こうと向き合う。自分たちが、先輩社員からそうしてもらったように。

ツルタ製作所には今春、安城特別支援学校から二人が入社した。今年も七月と九月に一人ずつ二週間、男子生徒が実習を予定する。「皆、楽しみに待っていますよ」と鶴田さんがほほ笑んだ。

(四方さつき)

安城特別支援学校高等部で、企業への就職を目指す生徒たちの一年を密着取材しています。今回は企業で行われる現場実習の様子をお伝えします。